



Data

監督：サメフ・ゾアビ
出演：カイス・ナシェフ/ヤニブ・
ビトン/ルブナ・アザバル/
マイサ・アブドゥ・エルハデ
イ/ナディム・サワラ/ユー
セフ・スウェイド

👁️👁️ みどころ

中東紛争の中でも、イスラエルvsパレスチナ紛争は最も根が深い。しかし、アラブ人の女スパイを主人公とする『テルアビブ・オン・ファイア』なるTVドラマの人気は？中国の抗日・反日ドラマは一方向的に日本軍人が悪役と決まっているが、アラブ人からもイスラエル人からも大人気のTVドラマの展開と結末のあり方は難しい。

『笑いの大学』(04年)では、検閲官と劇作家との共同作業が笑いと涙を誘ったが、本作では新米脚本家と検問所の軍司令官との共同作業(?)に注目!

『卒業』(67年)のラストシーンは今なお語り草だが、女スパイと将軍の結婚式という結末はさすがにダメ?他方、そこでの爆弾テロも如何なもの?しかして、2人がたどり着いた、誰もが納得する(?)あっと驚く結末とは?

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■多くの賞を受賞! イントロダクションは? ■□■

本作は第75回ヴェネツィア国際映画祭での作品賞と最優秀男優賞をはじめとして、多くの賞を受賞している。

また、パンフレットに書かれている本作のイントロダクションは次のとおりだ。

人気ドラマの脚本をめぐる、イスラエル人とパレスチナ人が対立!?

エルサレムに住むパレスチナ人青年のサラームは、パレスチナの人気ドラマ「テルアビブ・オン・ファイア」の制作現場で言語指導として働いているが、撮影所に通うため、毎日面倒な検問所を通らなくてはならない。ある日、サラームは検問所のイスラエル軍司令官アッシンに呼び止められ、咄嗟にドラマの脚本家だと嘘をついてしまう。アッシンはドラマの熱烈なファンである妻に自慢するため、毎日サラームを呼び止め、脚本に強引にアイデアを出し始める。困りながらも、アッシンのアイデアが採用されたことで、偶然にも脚本家に出世することになったサラーム。しかし、ドラマが終盤に近付くと、結末の脚本をめぐる、アッシン（イスラエル）と制作陣（パレスチナ）の間で板挟みになったサラームは窮地に立たされる——。果たして、彼が最後に振り絞った“笑撃”のエンディングとは!?

■□■サメフ・ゾアビ監督はパレスチナ人！前作の脚本は？■□■

本作で多くの賞を受賞し、世界から「新たな才能として注目を浴びている」というサメフ・ゾアビ監督は、1975年にイスラエル・ナザレ近くにあるパレスチナ人の村・イクサルで生まれたパレスチナ人。そう聞いても、中東の基本的知識が不十分なうえ、第1次から第4次中東戦争をはじめとするイスラエルvsパレスチナ紛争の近現代史も知らない私たち日本人には、そんな彼がなぜ本作のような映画を監督したのかについて何のイメージを抱くこともできない。本作のパンフレットにはイスラエルとパレスチナの地図と近現代年表があり、さらにオスロ合意等のKEYWORDの解説があるので、これらは必読。さらに、根本豪氏（ユダヤ学者）の「エルサレムとラマッラーの間に」と題するREVIEWも必読だ。

しかし、そんな難しい勉強とは別に、パレスチナ人のサメフ・ゾアビ監督がイスラエル人のハニ・アブ＝アサド監督のパレスチナ映画『歌声にのった少年』（15年）（『シネマ39』268頁）で共同脚本を書いているという事実を聞くと、イスラエルとパレスチナは遠いようで意外に近いことが理解できる。ハニ・アブ＝アサド監督の『オマールの壁』（13年）は、ヨルダン川西岸地区に建設されたイスラエルとパレスチナの「分離壁」を鋭く社会問題提起した映画だった（『シネマ38』110頁）が、『歌声にのった少年』では一転して、全米の人気オーディション番組『アメリカン・アイドル』のエジプト版『アラブ・アイドル』にパレスチナ・ガザ地区からただ一人登場し、見事「アラブ・アイドル」の地位に輝いた少年のサクセスストーリーを映画にしていた。もっとも、「一転して」と言えるのかどうか微妙なことは私の評論でも書いたが、同作の共同脚本を書いたサメフ・ゾアビの監督作品たる本作では、脚本家見習いのサラーム（カイス・ナシェフ）を主人公としているので、そのキャラクターに注目！

■□■世界中どこでも、女性人気ドラマに夢中！■□■

日韓関係が悪悪になっている昨今でも、韓国ドラマの人気はなお続いているから、日韓関係が良好だった当時の韓国ドラマの人気はものすごかった。『冬のソナタ』や『宮廷女官

チャングムの誓い』をはじめとする日本人ファンの多くは「おばちやま族」だったが、女性が人気 TV ドラマに夢中になるのは世界共通らしい。しかして、本作冒頭に映し出される人気ドラマ『テルアビブ・オン・ファイア』とは？それは、パンフレットの「ドラマ『テルアビブ・オン・ファイア』の背景」によると、次のとおりだ。

ドラマ『テルアビブ・オン・ファイア』の背景

1967年、第三次中東戦争の3ヶ月前のテルアビブ。街の中心にスパイとして送り込まれたパレスチナ人女性のマナルは、フランスから来たユダヤ人移民“ラヘル”と名乗っていた。彼女の使命はイスラエルの戦争計画をつかむために、イスラエル軍で最も力を持つ将軍イエフダと出会い、誘惑すること。マナルはマスターシェフとして、テルアビブで最高のフレンチレストランをオープン。“ラヘルのレストラン”はイスラエル軍本部の向かいに位置していた。それをきっかけに、彼女はイエフダに近づき、美味しいフランス菓子で彼の興味を惹き、やがてラヘルとイエフダは恋人関係に。しかし、マナルは本当に恋に落ちてしまう。彼女はパレスチナの主義を忘れたのだろうか？

映画の撮影現場をネタにした映画は、去る1月25日に観たテリー・ギリアム監督の『テリー・ギリアムのドン・キホーテ』（18年）が有名だし、邦画の名作としては『蒲田行進曲』（82年）等があるが、それは本作も同じ。

主婦たちを中心に、パレスチナだけではなくイスラエルでも絶大な人気を博している『テルアビブ・オン・ファイア』の撮影現場のインターンとして働き、雑務やヘブライ語の言語指導をしているのがパレスチナ人のサラームだ。彼は、あるシーンの撮影中、女性に対し“魅力的”という意味で使用したヘブライ語のセリフは“爆発的”という意味があり、女性に使うのはおかしいと指摘。脚本家は納得しなかったものの、主演女優のタラ（ルブナ・アザバル）やプロデューサーはそれに同意し、セリフは修正されたから、これを機に、サラームはタラからの信頼を得て、直接言語の相談を受けることに。

■□■毎日通る検問所で逮捕！？軍司令官は意外にも・・・？■□■

ベツレヘムはイエス・キリストが誕生した土地として有名だし、エルサレムも聖書に再三登場する有名な土地。そのエルサレムは、2018年にトランプ大統領がイスラエル米大使館をテルアビブからエルサレムに移転したことによって、近時世界中の注目を集めている。しかし、その少し北にあるラマッラーや、その中間点にあるカランディア検問所は日本人は全く知らない地名だ。エルサレムに住むサラームは、ラマッラーにある『テルアビブ・オン・ファイア』撮影現場まで毎日車で往復していたが、その途中にあるカランディア検問所を通らなければならなかった。普段は検問に何の問題もないが、ある日の撮影現場からの帰り道、検問所の女性兵士に、「女性に対して“爆発的”という褒め言葉はおかしいか？」と尋ねたサラームは不審人物と見られたため、軍司令官のアッシ（ヤニブ・ピト

ン)の下へ連行されることに。今は、イスラエル vs パレスチナの和平が保たれているが、検問所で「爆発的」は禁句。ヘタすると、このままサラームは逮捕されてしまうのでは・・・？

サラームの取調べにあたったのはアッシその人だったから、事態の重大性は明確だ。ところが、サラームが人気ドラマの脚本の仕事をしていることがわかると、アッシは意外にも態度を一変！取調べもそこそこに、「ドラマの結末を教えろ」と迫ってきたからアレレ……。しかし、医者には患者の秘密保持義務があり、弁護士に依頼者の秘密保持義務があるのと同じように、ドラマ製作中の脚本家にもドラマの秘密保持義務がある(?)から、サラームが「それはできない」と断ったのは当然。しかし、アッシがドラマを「ある結末」にするよう迫ると、意外にもサラームはそれに同意。これによって、サラームはあっさり解放されたから、おいおいサラームくん、ホントにドラマの結末をアッシの提案どおりに変えるつもりなの？

他方、家に帰ったアッシは、『テルアビブ・オン・ファイア』に夢中になっている母親や妻たちに対して「このドラマは反ユダヤだ。」とけなしたが、「政治だけでなくロマンチックなの。」と反論されるとあっさり撤回。そして、改めてアッシが『テルアビブ・オン・ファイア』を注意深く観てみると・・・？

■□■ 1人より2人のアイデアの方が！『笑いの大学』では？■□■

三谷幸喜の原作を映画化した『笑いの大学』(04年)は、役所広司扮する「笑いを憎む検閲官」と稲垣吾郎扮する「笑いを愛する劇作家」の、取調べ室における二人芝居がテーマの感動作だった(『シネマ6』249頁)。普通は1人より2人、2人より3人が練った台本の方がいいものになるはずだが、治安維持法による思想統制や検閲制度の下での検閲官の要求は、「外国人の登場はダメ」「接吻場面はダメ」等の無理難題ばかりだったから、劇作家は大変。それと同じように(?)、アッシは検問所で呼びつけたサラームに対して、「イスラエル軍の軍服がおかしい」とケチをつけたうえ、自分の書いた脚本を採用するよう強引に手渡してきたから、サラームは大変。しかし、サラームがあたかも自分の提案のようにアッシのクレームやアイデアさらに彼が書いた脚本を提案すると、意外にも番組のプロデューサーである叔父のバッサム(ナディム・サワラ)はそれを受け入れたからすごい。そんなバッサムの態度にそれまでの脚本家は激怒して降板してしまっただが、それによって逆に、バッサムはサラームを見習いからメインの脚本家に抜擢したから、これまたすごい。

『笑いの大学』では、劇作家は検閲官の理不尽な要求を満たしつつ抜け道を探し、台本は一層笑えるものになっていったから中盤の共同作業は「順調」だったが、最後の要求は「笑いのない喜劇を書け」という無茶なものだった。しかし、本作は？そんな風に私は『笑いの大学』と比較しながら、本作中盤にみる2人の共同作業を見ていたが、アイデアがなかなか浮かばないサラームに対して、アッシの方は次々と面白いアイデアが浮かんでくるらしい。本作で2人の共同作業を仲介する(?)のは、フムスと呼ばれるアラブ料理。

これを巡る2人のやりとりの面白味は、日本人にはサッパリわからないのが残念だが、ストーリーの結末について、アッシが「(アラブ人女性のスパイ) ラヘルと(ユダヤ人の将軍) イェフダを結婚させろ。」と要求したことの不都合さは日本人にも理解できる。プロデューサーのバッサムは、ドラマの結末は『マルタの鷹』を模倣したもので決まっているとサラームの案を無視したうえ、「第2のオスロ合意か!」と一蹴したのは当然。もっとも、このバッサムのセリフの意味を今ドキの日本人はどこまで理解できる? 本作は多方面の勉強が必要だが、いやはや何とも面白い!

■□■結末は結婚式?それはあなた自身の目でしっかりと!■□■

第1次世界大戦中パリで活躍した「マタ・ハリ」は歴史的に有名な女スパイだが、近時『レッド・スパロー』(17年)、『シネマ 41』189頁)や『アトミック・ブロンド』(17年)、『シネマ 41』194頁)等の面白い女スパイものがある。『テルアビブ・オン・ファイア』の一方の主人公はアラブ人の女スパイ・ラヘルだから、パレスチナ人は彼女の活躍に拍手喝采し、いかにイスラエル人の将軍イェフダ(ユーセフ・スウェイド)を騙し、イスラエル軍をやっつけるかを固唾を呑んで見守っていたのは当然だ。他方、同じ番組を観ているイスラエル人の方は、ラヘル(暗躍)ぶりを楽しみつつ、最後はイスラエルの勝ちで終わると信じていたから、その結末のつけ方は難しい。中国の抗日・反日ドラマなら、一方的に日本軍人を「日本鬼子」と悪役にすばいだけだが、さあ『テルアビブ・オン・ファイア』の結末は如何に? ホントにバッサムが言うように『マルタの鷹』を模倣した結末が良いの? それとも、・・・? もっとも、ラストにアラブ人の女スパイ・ラヘルとイスラエル人将軍イェフダとの結婚式でハッピーエンドというのは、『卒業』(67年)のラストのような劇的な展開ならまだしも、あまりにもバカげていることは明らかだ。すると、その正反対に、そこでブーケに仕込んだ爆弾を爆発させれば・・・? そんなアイデアも出たが、イヤイヤ、それも・・・?

ドラマの結末については、サラームとアッシ双方のアイデアを軸とし、バッサムやスタッフたちからの意見もいろいろと出されたが、イスラエル陣営とパレスチナ陣営の双方が納得、満足する結末は難しい。サラームは恋人のマリアム(マイサ・アブドゥ・エルハディ)とのデートも犠牲にして、主演女優タラと共に脚本作りに悪戦苦闘を続けたが、事態は悪化するばかりだ。『笑いの大学』では、徹夜で修正した台本は全く新しく書き下ろしたと言ってもよいもので、最高に笑えるものだった。しかし、一枚の「赤紙」によって状況は一変し、涙を誘うすばらしいラストに繋がっていたが、さて、本作の結末は?

『バラサイト 半地下の家族』(19年)ではポン・ジュノ監督自らがパンフレットの冒頭で、「頭を下げて、改めてもう一度みなさんに懇願をします。どうか、ネタバレをしないでください。みなさんのご協力に感謝します。」と書き、ネタバレ厳禁を徹底させていた。本作にはそんな警告はないが、パンフレットにあるストーリーは「追い詰められたサラーム

だったが、全ての者が納得する驚くべきアイデアを思いつく。果たして、彼が最後に絞り出した笑撃の結末とは——！？」と書いてあるものの、当然その結末は書かれていない。したがって、本作も『パラサイト 半地下の家族』と同じように、予測不能の結末はあなた自身の目でしっかりと！

2020（令和2）年2月10日記

「テルアビブ・オン・ファイア」(ルクセンブルク、フランス、イスラエル、ベルギー映画・2018年)

洋20-26 ★★★★★

<シネ・リーブル梅田>

2020(令和2)年2月8日鑑賞

2020(令和2)年2月10日記

監督:サメフ・ゾアビ

サラーム(エルサレム在住のパレスチナ人、脚本家見習い) /カイス・ナシエフ

アッシ(検問所のイスラエル軍司令官) /ヤニブ・ビトン

タラ(ドラマ『テルアビブ・オン・ファイア』の主演女優) /ルブナ・アザバル

マリアム(サラームの幼馴染、恋人) /マイサ・アブドゥ・エルハディ

バッサム(ドラマ『テルアビブ・オン・ファイア』のパレスチナ人プロデューサー) /ナ

ディム・サワラ

イエフダ(ドラマ『テルアビブ・オン・ファイア』のイスラエル軍将軍) /ユーセフ・ス

ウェイド

配給:アット エンタテインメント / 97分